

SDGs 賞受賞校インタビュー

SDGs に関連するテーマは
自分たちの身近な所にもあります

2018年度から、「SDGsを意識する」という課題が新たに加わったKWN日本コンテスト。今回は晴れてSDGs賞を獲得した、福島県立いわき光洋高等学校・放送委員会を直撃しました。

——SDGs賞受賞おめでとうございます。今回がKWN初参加と聞きました。

江尻さん ありがとうございます。最終的に先輩と2人で作ったんですが、最初はカメラの扱い方など全くわからず、先生にアドバイスをいただきつつ、協力しあって頑張ったのを覚えています。

中野先生 いわき市の他の高校がKWNに参加しているのを知り、うちでもやってみたら？と提案したのがきっかけです。最初は全くの初心者だったので、アドバイスをしつつ。でも途中からは、投げっぱなしというか(笑)、ほとんど自分たちでこなすようになりました。

——テーマ決めが重要だったと思うのですが

中野先生 1ターン後にいわき市で森林保護などさまざまな活動を行っている高橋さんという方に以前から注目していて、今回のKWNの作品作りには格好かなと。
江尻さん 私、木が大好きで、以前から森林保護などにも興味があったんです。実際に高橋さんに会って話してみると、地元の木を使って割り箸を作るなど、自分たちの町で地域おこしや森林を守っている。すごいなと思って。

中野先生 割り箸をテーマにしてそこを



江尻晴香さん(高校2年生)



深掘りしたらKWNの題材として面白そうだなと思ったのがきっかけですね。

江尻さん でも当初はSDGsという言葉自体知らなくて、意識して作るのがとても難しかったです。

——作品制作で大変だった点は？

江尻さん 何度も取材を重ねて、高橋さんの本音を聞き出そうと思ったのですが、そのたびに高橋さんの真剣度が伝わってきて。しっかり番組を作って観てくれた皆さんに伝えないと、というのがプレッシャーでした。

中野先生 計4回ロングインタビューを行ったのですが、毎回インタビュー内容を全部書き起こしてもらって、ああでもない、こうでもない彼女たちに議論してもらって。そうして徐々にシナリオを作り上げていきました。

——インタビューありきだったわけですね。

江尻さん そうです。インタビューしているうちに、日本の林業は大丈夫なのかとか、地域の中小企業などを支援する取り組みが、もう少し充実していても

いいのでは、などいろいろ考えさせられて、それらも伝えたいと思うようになりました。

——人間的な成長にもつながっていったと

中野先生 放送委員会や映像制作に必要なスキルはもちろんですが、自分たちから建設的な意見を言ってくれるようになるなど、自分なりの考えをしっかりと持つようになったかなと感じます。

江尻さん 今、振り返ってみると、少しナレーションが暗かったと反省しています。もっと明るく喋っていれば、作



インタビューの書き起こし原稿。取材後、翌週までに必ず書き起こしを行っていた。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



放送委員会の顧問である中野加奈子先生

品の印象も変わったのかなと思います。

——最後にKWN参加校の皆さんにアドバイスををお願いします。

中野先生 SDGsというと自分たちの生活とは遠く離れた存在だと感じがちですが、身近で環境保護などを頑張っている人がいたりとか、意外と身近にテーマが転がっていたりするものです。自分の身の回りに着目してみるとヒントが見つかるかもしれません。

江尻さん 今回は森林保護をテーマにしたので、次は海をテーマにした作品作りチャレンジしてみたいです！



2018年度KWN日本コンテスト
SDGs賞受賞

『覚悟』

制作：福島県立いわき光洋高等学校
グループ名：放送委員会 チーム小宮

いわきに1ターンし、地元の廃材を使って箸作りを行う男性への取材を通して、地域密着型の環境保護や、持続可能な資源活用の大切さなどを訴えた作品。

東京2020公認プログラム
「Sharing The Dream 2020」を各校で実施！



ワールドワイドオリンピックパートナーであるパナソニックが、学校でのオリンピック・パラリンピック教育活動を支援するため2015年から実施している「Sharing The Dream 2020」。オリンピック・パラリンピックをテーマとした30秒の映像制作や、オリンピック・パラリンピック参加国への応援メッセージなどの映像を制作しています。昨年度は、国際オリンピック委員会による若者のスポーツを通じたコミュニティー活動であるIOCヤング・リーダーズのメンバーも来日。各校の子どもたちとの国際交流を行いました。

復興支援プログラム「きっと わらえる2021」
映像タイムカプセル開封式が開催



東日本大震災の直後からスタートした「きっと わらえる2021」。今年1月の成人式を機に、当時の子どもたちが制作した映像タイムカプセル「未来へのメッセージ」を開封することとなりました。開催した学校は、福島県の熊町小学校・大野小学校をはじめ、岩手・福島・宮城県の計4校。いわき市内で開催された熊町小学校・大野小学校の開封式では、当時の先生や保護者も招き、上映会を実施。立派に成人した当時の子どもたちは、当時6年生だった自分の映像が流れるたびに、照れ笑いあり、感激の涙ありで、それぞれに自らの成長を確かめていました。

